

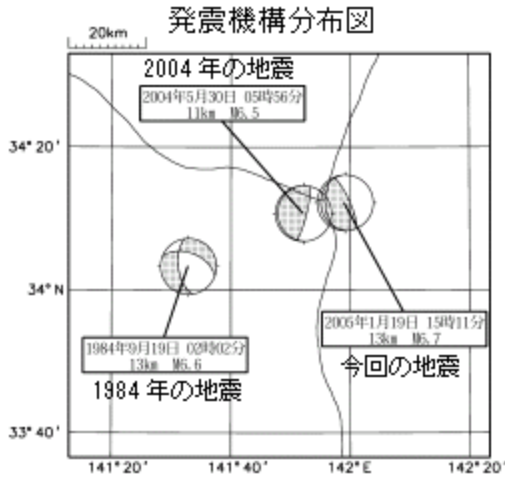
1月19日 房総半島南東沖の地震について（その4）

今回の地震の付近では、ほぼ同規模の地震が1984年9月19日（M6.6）と2004年5月30日（M6.7）に発生している。1984年の地震では、千葉県館山市や東京都八丈島で高さ10cm程度の津波を、2004年の地震では、伊豆諸島の三宅島・大島・八丈島等で高さ10cm未満の津波を観測した。

1984年の地震では、千葉県館山市や東京都三宅島・八丈島の震度4を最大として、北海道地方から近畿地方の一部にかけて震度1～3を観測している。発震機構（P波初動解）は、北東-南西方向に張力軸を持つ正断層型であった。

1984年の地震と2004年の地震および今回の地震では、場所や規模が同程度である一方で、震度分布は顕著に異なっている。この要因として、1984年の地震波形は震度の大小に最も関係のある周期1秒程度の短周期成分が卓越しているのに対し、2004年の地震および今回の地震では周期10秒程度の長周期成分が卓越していることが挙げられる。

また、今回の地震は2004年の地震に比べ最大振幅の発現が遅くなっていることがわかる。



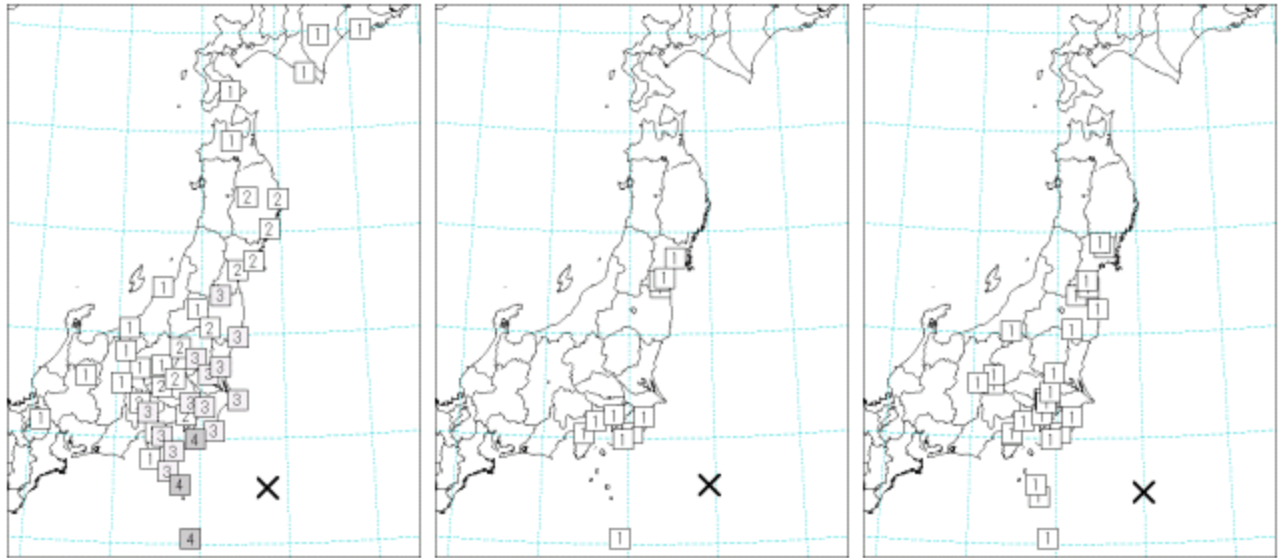
×1984年の地震はP波初動解、2004年の地震および今回の地震はCMT解による。

震度分布図

(1984年9月19日、M6.6)

(2004年5月30日、M6.7)

(2005年1月19日、M6.8)



精密地震観測室(長野市松代)で観測された地震波形(速度:上下動)

